

予測文法研究（1）：「が」と「は」の予測機能について

内田安伊子、池上摩希子、大野早苗、大島弥生、長友和彦

要 旨

与えられた言語要素から、次に来る言語要素を予測する言語能力、即ち、予測文法の解明に向けて、特に、「が」と「は」の予測機能に焦点を当て、それが文という範疇内でどのような予測の引き金になるか、また、後続文のどのような予測に結びつくかということの解明を試みた。実験的手法を用いて収集したデータを分析した結果、「が」と「は」が、述語の状態性／動作性と時制、それが付加される主語名詞句のスコープ、後続文の主題の選択、に関わる予測機能を持つことが明らかになった。

本研究は、予測文法という言語能力の解明に寄与する実験的基礎研究であるが、日本語の予測文法が明らかになれば、それを通して、日本語学習者の文法能力の発達過程の一端を解明することも可能となろう。

[キーワード] 予測、予測文法、「は」と「が」、予測機能、言語能力

1. はじめに

「長かった夏休みも今日で…」—ここまで聞いたり、目にしただけで、日本語母語話者であれば、その次に「終わる」とか「おしまいだ」という述語がくるだろうと予測できる。つまり、人間の聴解能力と読解能力には、与えられた言語情報を処理し、意味を抽出する能力に加え、それに続く言語情報を予測する能力も含まれていると考えられる。従って、言語運用能力の解明には、その予測能力の解明も不可欠である。予測の要因としては、音声、語、語句、文、談話など言語を構成する全ての要素が考えられる。(注1) 予測能力が、人間の基本的な言語能力である文法に根ざしていることは自明なことであり、本稿では Oller (1979, 1983) に従い、この予測能力を予測文法 [expectancy grammar] と呼ぶことにする。予測文法とは、既にある文法知識を活用し、与えられた言語情報から次に来る言語情報を予測する言語能力のことである。

本稿では、まず、文という範疇に限定し、その中で、特に日本語の基本的な機能語である「が」と「は」の働き、即ち予測機能について、実験的手法を用いて収集したデータの分析をもとに考察を加える。さらに、「が」と「は」が一文を越えて、次に続く文をどのように予測させるかという点についても検討を行なう。

2. 先行研究および本研究の目的

Oller (1979, pp. 24-25) は、発話とコンテキストとは写像 (mapping) 関係にあり、人間はコンテキストを発話に写像しながら、また、同時に発話をコンテキストに写像しながら言語を使用しており、そのような言語使用に関わる知識も文法体系に組み込まれていると述べている。さらに、その語用論的知識は、与えられた言語要素から、次に来る要素を予測できるとしている。その予測能力には、言語を構成する諸要素の関係を予測する能力と、言語と言語外のコンテキストとの関係を予測する能力があり、Oller (1979) は前者を予測文法 [expectancy grammar]、後者を語用論的予測文法 [pragmatic expectancy grammar] と呼んでいる。

日本語でのこのような予測能力に関する実証的研究として、寺村 (1987) と市川 (1993) がある。寺村 (1987) は、日本語母語話者を対象に、ある文を文節ごとに区切って冒頭から順次提示し、その継続部分を予測させるという実験を行った。その結果から「ネイティブスピーカーというものは、驚くほどの正確さで、しかもかなり先まで現れそうな語 (の連なり) を予知するものだ」(p. 58) と指摘している。この実験結果は、次のようにまとめられる。

(1) 日本語母語話者は、かなり早い段階で (寺村の実験によると第二文節まで提示した段階で)、その述語の形態 (名詞文、形容詞文、動詞文といった文の種類)・表現内容 (ある対象の性状描写の文か、出来事や動作を述べた文か等) テンスを予測する。このうち、述語の形態の予測とテンスの予測とは連動しているようである。

(2) 「名詞+助詞」「名詞+助詞」という連なりから、一定の動詞が連想される。その際、それぞれの名詞同士の関係のあり方が動詞の連想に影響を与えるのではないか。

(3) (2) でなされた予測は、さらに次の「名詞+助詞」が加わっても、そのまま受け継がれる。

(4) 予測内容は、言語外的知識（文化に関わる部分）も含む。

寺村の実験では、対象が日本語母語話者に限られていたが、学習者と母語話者では予測の仕方がどのように違うかを探る目的で、同様の実験を学習者を対象に行った結果が市川（1993）に報告されている。そこでは、学習者が後続の文の展開を予測するために必要とされる能力が 1) 文構成上の予測能力 と 2) 語彙上の予測能力の各領域でリストアップされ（注2）、こうした予測に必要なのは長期にわたって積み上げて身に付けた文法的語彙的知識であり、それには、その語句のもつ固有の意味だけでなく、社会通念、常識等の文化的要素も含まれると指摘されている。

本研究では、まず、文という言語範疇に限定し、与えられた文の構成要素から、どのような他の構成要素を予測するかという予測文法に焦点を当て、その中で特に、日本語の基本的機能語である「が」と「は」の予測機能を明らかにするため、「が」と「は」によって、何が予測されるかということについて考察する。さらに、「が」と「は」が後続文のどのような予測に結びつくかという点についても検討を行なう。

3. 方法

次のような文を使用し、分析対象のデータを収集した。（注3）記号「/」は文を切った箇所を表す。

文<1> 浦和市のA子さん(60)が/都心の/日本橋に通勤していた/ころ、/
きまった/車両のきまった/ドアの横に立って、/日本橋まで通う/
目の/不自由な女性と/毎朝一緒に/なった。

文<2> 浦和市のA子さん(60)は/都心の/日本橋に通勤していた/ころ、/
きまった/車両のきまった/ドアの横に立って、/日本橋まで通う/
目の/不自由な女性と/毎朝一緒に/なった。

（文<1> と文<2> との違いは、文頭の「が」と「は」の違いだけである。）

データ収集の方法は、寺村（1987）、市川（1993）とほぼ同様に、各文を「/」の箇所まで黒板に書き、後に続く文を予測させ、被験者に一斉に用紙に記入してもらうという方法をとった。具体的には、文<1>では、調査者は「浦和市のA子さん(60)が」と板書し、「次に続けて思いつくままに書き、文を完

成させてください。」と指示する。被験者は手元の用紙に「浦和市のA子さん(60)が」で始まる一文を書く。続けて、「浦和市のA子さん(60)が都心の」との板書を与え、被験者に2枚目の用紙にその部分で始まる文を最後まで書いてもらう。このようにして、被験者は「/」の回数の文を完成させ、さらに、全文の内容を知った上でそれに続く第2文を予測して書くことを求められた。

被験者及び調査の時期は次の通りである。

[時期]	[被験者]	[調査文]	[被験者数]
1994年7月	大学学部生	文<1>	18名
1994年9月	一般成人	文<1>	25名
1994年12月	大学学部生	文<2>	24名

以上のとおり、現時点までに、のべにして文<1>43件、文<2>24件の日本語母語話者のデータが得られた。本稿では、これらのデータを分析の対象として、次項から論考を進めていく。

4. 分析結果および考察

以下では、文<1>(Aさんが)と文<2>(Aさんは)とを比較しながら区切り毎に、それに続く部分がどのように予測されているかを見ていくなかで「が」と「は」の予測機能を中心に考察する。なお以下では、「が」「は」各々の特徴を分かりやすくするため、文<1>を『が』文、文<2>を『は』文と呼び、被験者によって書かれた文のうち、典型的な文のみを例文として取り上げながら考察を進めることとする。(収集したデータ全体については添付資料を参照されたい。)

(1) 浦和市のA子さん(60)が/は

- ・～が ①昨夜遺体で発見されました。
②太平洋をヨットで横断した。
- ・～は ③昨日市民栄誉賞を受賞した。
④現在娘さん家族と暮らしています。
⑤幼い頃から手足が不自由でした。

書かれた文を述語の種類によって分類すると次のようになる。

	動詞文	名詞文	形容詞文	状態性	動作性
『が』文	97.6 (%)	2.4	0	16.3	83.7
『は』文	87.0	8.7	4.3	39.1	60.9

動詞文の割合が多いのはどちらにも共通である。しかし、『は』文で使われている動詞には、④のように「～ている」「～ことになる」などの形になっているものが全動詞文の3割ほどあり、これらは動詞文といっても一過性の動作・行為を表わすのではなく状態性の内容を表わす文だといえる。したがって述語を品詞別でなくその内容によって分類すると上記の表の右の欄のようになり、『が』文に比べて『は』文では状態性の内容がより多く予測されていることがわかる。

また、時制によって分類すると次のようになる。

	過去	非過去
『が』文	92.9	7.1
『は』文	73.9	26.1

この結果は寺村（1987, p. 63）の「述語が動詞に絞られるのと文末が過去の形に絞られるということが連動しているらしい」というコメントと一致する。さらに言えば、動作性の内容を持つ文では過去時制が現れやすく、状態性の内容を持つ文では（たとえ動詞文であっても）非過去時制が現れやすい、ということになるであろう。

次に語句の意味の影響と思われることを付け加えておく。『が』文『は』文ともに①～③のような非日常的な事柄を述べた文が多く、殊に①のような好ましくない事件を内容としたものが、ともに半数近くあった。これは、「浦和市のA子さん(60)」という報道記事によく見られる表現のためではないかと考えられる。

(2) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の

続けて書かれた文を(1)と同様に述語の種類によって分類すると次のようになる。

	動詞文	名詞文	形容詞文	状態性	動作性
『が』文	97.5	2.5	0	20.0	80.0
『は』文	83.3	12.5	4.2	66.7	33.3

『が』文では(1)と同じくほとんどが動詞文である。『は』文でも動詞文が

多いが、「～ている」などのかたちで状態や経験を表わしているものがさらに増えて全動詞文の55%を占めた。

時制についての結果は次の通りである。

	過去	非過去
『が』文	90.0	10.0
『は』文	37.5	62.5

『は』文において非過去の文が大幅に増えた。名詞文・形容詞文・状態性の動詞文だけを見ると、それらの93%が非過去である。

動詞文の中でも状態性の内容を表わす文が増えたことと、非過去時制が増えたことを見ると、やはりこの両者には関連性があると考えられる。

また「都心の」という語句を与えられたこの段階でなぜ状態性の内容を持つ文が増加したのだろうか。その理由としては、具体的な語句を与えられたことによりA子さんに関してなんらかのイメージが広がり、説明や性状描写がしやすくなったのではないか、ということが考えられる。

(3) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していた

- ・～が ①男性にあぶないところを助けられました。
- ②ころは、今のように朝夕の通勤ラッシュはなかった。
- ③途中、車にはねられ死亡しました。
- ・～は ④息子さんに、うちへ戻るように電報を打ちました。。
- ⑤去年の八月に初めて書道教室に通うことになりました。
- ⑥ことがあります。
- ⑦が、現在は孫の面倒を見るのに明け暮れている。

これらの文は、①から⑥のように、提示された部分を連体修飾構造の修飾部であると捉え、次に被修飾部としてなんらかの名詞を続けたものと、⑦のように接続助詞を続けたものとの、大きく分けられる。『が』文『は』文ともに前者が多数を占めるが、具体的な割合は次の通りである。

	名詞を続けたもの	接続助詞を続けたもの
『が』文	95.1	4.9
『は』文	83.3	16.7

さらに、被修飾部の名詞を分類すると、①④のように修飾部の述語に対して主格関係を持つ名詞と、②③⑤⑥のようにそのような関係を持たない名詞に分

けられる。それぞれの割合を示すと次のようになる。

	主格関係を持つ	主格関係を持たない
『が』文	56.4	43.6
『は』文	30.0	70.0

主格関係を持つ名詞として数えられたものは、具体的にはすべて人物を表わす語ばかりであった。主格関係の無い名詞としては、時を表わす語が大多数であった。これらは、「～頃、～途中、」のように単独で、或いは「～頃に、～時に、」のように助詞をともなって、主文の述語にかかる副詞節を構成する役割をしている。また、主格関係を持たない名詞の中には形式名詞「こと」も含まれていたが、この場合は「～ことがある」という慣用的な使い方のみであった。

『は』文においてA子さん以外に新たな人物が登場する割合が少ないということは、「は」名詞句が文全体にかかること、即ち「は」を付加された語句であるA子さんが最後までその文の主題として保たれていることを示している。

(4) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、

- ・～が ①新しいビルが次々に建設されていた。
- ②私鉄はまだ浦和まで通じていませんでした。
- ③私はまだほんの子供でした。
- ・～は ④マージャンにこっていた。
- ⑤地下鉄を利用していた。
- ⑥大きな病気をしました。

提示部分のあとに、①～③のようにA子さん以外の新たな主語と述語が現れるか、或いは主語はA子さんのみのままで④～⑥のように述語だけ新たに現れるか、を見てみると次のようであった。

	新たな主語が現れる	現れない
『が』文	56.0	44.0
『は』文	0	100.0

『が』文において新たな主語が現れるということは、「が」名詞句がそこでは埋め込み文の主語としてしか機能しないことを示している。一方、『は』文において新たな主語が現れないということは、(3)でみたように、「は」名詞句が埋め込み文だけでなく、それを越えて主文の主語として保たれているこ

とを示している。つまり、「が」が、それが付加される主語名詞句のスコープを埋め込み文に限定するのに対して、「は」は、それが付加される主語名詞句のスコープを、埋め込み文を越えて主文にまで広げる機能を持つことがわかる。なお、『が』文に現れた新たな主語のうち、③のような有情物（この場合はすべて人間であった）はわずか 17.4%であり、その他は①②のように「ビルが、風景が、ファッションは、」などのように非情物であった。

(5) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった
このあと『は』文においては、(4)と同様新たな主語は現れない。

また「きまった」のあとには『が』文『は』文ともに名詞が置かれ、100%連体修飾構造になっており、それらの名詞は『が』『は』共に「時間、時刻、座席、場所」などの語がほとんどであった。これは、「通勤していた」「きまった」という語句とその他の語句との関係から、同じような語句が連想されたことを示している。

(6) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった
車輛のきまった

「きまった」に続く語句としては、原文とは異なるとは言え、上の(5)で見たように与えられた語句と語句との関係から以下のようにほぼ同様の予測がされている。

	座席、席	場所、ところ、位置	計
『が』文	74.4	16.3	90.7
『は』文	58.3	25.0	83.3

(7) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった
車輛のきまったドアの横に立って

「立って」のあと、A子さん以外の主語が現れるかを見たところ次のようであった。

	現れる	現れない
『が』文	31.0	69.0
『は』文	4.	96.0

『が』文においてのみ他主語が現れるのは上の(4)で見た通りであるが、(4)の時点に比べ『が』文においても最後まで主語をA子さんで通す文が多くなっている。その理由としては、提示部分が長くなってきており、その結果「が／は」と提示部分の末尾とが離れてしまったために、文を続ける際に「が／は」をあまり意識できなくなったこと、「日本橋に通う」ことと「電車に乗る」こととが内容的にすんなり結びつくので、両方とも同一人物の行為だと解釈する方が自然であること、などが考えられる。

(8) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輻のきまったドアの横に立って日本橋まで通う

- ・～が ①サラリーマンをよく見かけた。
- ②毎日を送っていた。
- ③のが日課であった。
- ・～は ④男性に一目惚れした。
- ⑤間、ずっと本を読んでいた。
- ⑥ことにしていた。

「通う」のあとは、『が』文『は』文ともに全て名詞に続く連体修飾の形になっている。(3)と同様にそれらの名詞を分類すると次のようになった。

	主格関係を持つ	主格関係を持たない
『が』文	41.8	58.2
『は』文	29.2	70.8

(3)の場合と同じく『は』文では①④のような主格関係を持つ名詞(内容的にはやはり人物を表わす語がほとんどである)の割合が少ない。

主格関係を持たないほうの名詞を見てみると、「都心の日本橋に通勤していたころ」という部分があるためと思われるが、②⑤のような時に関する表現が(3)の段階に比べて半減し、代わって③⑥のように「～こと」「～の」によって名詞節を作り、習慣や日課を述べるという内容の文が増えている。これは、「通勤」「きまった車輻のきまったドア」といった繰り返しの意味を持つ語句からの影響であろう。

(9) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輻のきまったドアの横に立って日本橋まで通う目的

- ・～が ①不自由なお年寄りがいたそうだ。
- ②見えない男性がいた。
- ・～は ③不自由な人を見かけた。
- ④青い外国人と出会い恋に落ちた。

「目の」に続く表現としては、上の例に見られる通り「不自由な、悪い、見えない」など慣用的な表現が、『が』文で61.0%、『は』文で69.6%で、共に多数を占めている。

これらの語はさらに名詞へと続くのであるが、その名詞が、続けて書かれた部分において①②のように新たな主語となっているかどうかを見たところ、次のようであった。

	新たな主語になっている	なっていない
『が』文	37.8	62.2
『は』文	0	100.0

この区切りの後には「目」になんらかの特徴を持つ人物が登場するわけであるが、『は』文においてその人物はあくまでA子さんの動作・行為の対象であり、「A子さんは」が主文の述語の主題として保たれている。

(10) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輛のきまったドアの横に立って日本橋まで通う目の不自由な女性と

- ・～が ①ぶつかってしまいました。
- ②その母親を何回も見ました。
- ・～は ③毎日話をしたそうです。
- ④知り合いになりました。

この区切りでは「と」をどのように捉えるかによって後続部分に違いが見られた。①③④のように「と」を相互動作の対象を導く格助詞ととった上で後続部分を予測しているものと、②のように並立助詞と解釈したものがあった。

『が』文『は』文ともに前者がはるかに多く、「と」の意味解釈に関しては「が／は」の影響はないと考えられるが、一応具体的な割合を次に示しておく。

	格助詞	並立助詞
『が』文	85.4	14.6
『は』文	87.5	12.5

(1 1) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輛のきまったドアの横に立って日本橋まで通う目の不自由な女性と毎朝一緒に

- ・～が ①なりました。
②電車に乗っている犬を見た。
- ・～は ③通っていました。
④おしゃべりをしていました。

この区切りの後に続けられた文には上のようなものがあった。『が』文『は』文ともにほとんどの文で、①③④のように「話をした、なった、通勤した」などの動詞が続いている。しかし、②のようにこのあとさらに「毎朝一緒にVするN」という連体修飾の形を予測しているものも僅かにあった。（『が』文で7%）

(1 2) 浦和市のA子さん(60)が／は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輛のきまったドアの横に立って日本橋まで通う目の不自由な女性と毎朝一緒になった。

この調査文全体がわかったところで、次にどのような文が続くか自由に予測させ書かせたところ、以下のようなものが見られた。

- ・～が ①その女性はハンディを持っているにもかかわらず誰の介護も受ける必要のないほどしっかりとした人だった。
②何度もあううちに二人は友達になり、毎朝電車の中でおしゃべりを楽しみました。
③ある日私はA子さんに話しかけるチャンスがありました。
④彼女とはそれ以来親しい友達として交際を続けている。
⑤あれから40年の歳月が過ぎたけれどあの人は今頃どうしているだろうか。
- ・～は ⑥彼女はその女性に話しかけたかったが、なかなか声をかけることができなかった。
⑦しだいにA子さんはその女性と話をするようになった。
⑧A子さんはたびたびその女性に声を掛けようとしたが、とうとう退職まで一度もできずじまいだった。
⑨その女性はとてもかわいらしい人だった。

第2文の主題として誰を取り上げているか、をみると次のようであった。

	A子さん	目の不自由な女性	二人	その他
『が』文	45.2	16.7	14.3	23.8
『は』文	78.3	21.7	0	0

『は』文では引き続きA子さんを主題にした⑥～⑧のような文が多い。つまり、主題名詞句「Aさんは」がその文だけでなく次の文の主題にもなる傾向が強いことがわかる。しかし、「きまった車輛のきまったドアの横に立って日本橋まで通う目の不自由な女性」という語句も主題性が高く、次の文の主題として引き継がれる可能性があることがわかる。

目の不自由な女性を取り上げた例としては①⑨などがあり、②では二人を一緒にして主題としている。『が』文の「その他」の欄に入れたもののうち、「私」を主語として立てた文が2例（③など）あった。また、話者の視点がA子さんの視点に移っていると思われる④⑤のような例もあった。

5. 結論および今後の課題

上記の分析結果とその考察から、「が」と「は」の予測機能について、次のような結論を導き出すことができる。

- (1)文頭の名詞句に付く「が」・「は」は、その名詞句に主語としての役割を付与するが、「が」（主語）名詞句は動作性述語、「は」（主語）名詞句は状態性述語を予測させる傾向にある。つまり、「は」文では、動作や行為を表わす動詞でも、「～ている」などの状態性を表わす述語に変換して使われることが多い。
- (2)「が」文はその述語として過去時制述語を、「は」文は非過去時制述語を予測させる傾向にある。つまり、「が」文の動作性述語は過去時制と、「は」文の状態性述語は非過去時制とそれぞれ結びつく可能性が大きい。
- (3)「が」は、それが付加される主語名詞句のスコープを節又は一文内に限定し、「は」は、その主語名詞句のスコープを節又は一文を越えた範囲にまで広げるといふ予測機能を一般に持つ。
- (4)「は」は、それが付与された主題（主語）名詞句が、後続文においても主題として引き継がれることを予測させる可能性が大きい。

本研究は、日本語の予測文法の解明に向けた第一歩として、対象を「が」と「は」の予測機能に限定し、実験的手法を用いて行なった基礎研究である。しかし、実際には、文と談話を構成する全ての言語要素、および言語外要素が予測の要因になっているのであり、「が」・「は」以外の諸要素がどのような予測に結びつくかという問題の解明は、今後に残された課題である。「が」・「は」についても、それが付与された名詞句の主語以外の役割や、「は」名詞句の対比性を予測させる諸要素を明らかにすることなど、残された課題は多い。

日本語の予測文法の解明が進むにつれ、それを通して、日本語学習者の予測文法の発達過程、即ち、言語習得過程の一端も明らかにできる可能性があり、それも今後の課題にしたい。

※ 本研究は、平成6年度科研費（一般研究B [06451159] 代表：水谷信子）の補助を得て、行なわれたものである。

【注】

- 1) 予測の要因には、ジェスチャーなど言語外要素も含まれるが、ここでは取り上げない。
- 2) 市川（1993）では予測能力を概ね以下のようにまとめているので参考までにあげておく。

1. 文構成上の予測能力

- (1) その文の述語の形態・表現内容・テンス、またその文が肯定か否定かを予測できるか。
- (2) 補語の格関係から後続の述語の種類が予測できるか。
- (3) その文のヴォイス、文末のムード形式が予測できるか。
- (4) その文が従属節となる時、どのような機能（引用・とき・理由・条件等）の連用修飾節となるか、またその前件から、後件の言語形式や表現内容を予測できるか。
- (5) その文が連体修飾節となるかが予測できるか。
- (6) 取り立て助詞（「は・も・だけ・でも・しか」等）から対比される語句や文が予測できるか。
- (7) 文に動作主、所有者等の省略があるとき、それが誰でどの述語に対

して立つかがわかるか。

2. 語彙上の予測能力

- (1) 副詞の持つ意味、あるいは呼応関係から後続の文の展開が予測できるか。
- (2) 指示語の種類（「こ・そ・あ」）から後続の文の展開が予測できるか。
- (3) その語が対比関係を持つ語句がわかり（男 \longleftrightarrow 女、子ども \longleftrightarrow 大人等）、後続の語句・文が対比的に予測できるか。
- (4) ある語句を聞いて、それを受ける述語が予測できるか。
- (5) 慣用的表現でその一部から残りが予測できるか。
- (6) 接続詞の意味がわかり、その後続の文の展開が予測できるか。

3) 使用した文は新聞のコラム（読売新聞 1994. 7. 3. 「ちょっといい話」）の冒頭文である。元の文は以下のとおり。

「浦和市の高浜さよ子さん(60)が都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車両のきまったドアの横に立ち、日本橋まで通う目の不自由な女性と毎朝一緒になった。」

【参考文献】

- 市川保子(1993)「外国人日本語学習者の予測能力と文法的知識」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号(pp. 1-18)
- 柴谷方良(1990)「助詞の意味と機能について—「は」と「が」を中心に—」『文法と意味の間』(pp. 281-301) くろしお出版
- 寺村秀夫(1987)「聴き取りにおける予測能力と文法的知識」『日本語学』第6巻・第3号(pp. 56-68) 明治書院
- Oller, J. (1979) *Language Tests at School* London: Longman.
- Oller, J. (1983) Evidence for a general language proficiency factor: an expectancy grammar. In J. Oller (ed.), *Issues in Language Testing Research* New York: Newbury House.
- スタインバーグ, D (1988) 『心理言語学』国広哲弥・鈴木敏昭訳 研究社出版

(内田・池上・大野<お茶の水女子大学人文科学研究科日本語文化専攻2年>、大島<香港大学>、長友<お茶の水女子大学>)

【資料】

文<1>浦和市のA子さん(60)が、都心の日本橋に通勤していた／ころ、／きまpped／車輦のきまpped／ドアの横に立って、／日本橋まで通う／目の／不自由な女性と／毎朝一緒に／なつた。

- (1) 浦和市のA子さん(60)が
1. 昨夜ひったくりに会い、現金およそ30万円を盗られました。
2. 帰宅途中でスリに会い、給料の入ったバッグを盗られました。
3. 路上で通り魔に襲われ、重傷を負った。
4. 駅のホームで突き倒され、そこに入ってきた電車でひかれて即死した。
5. 昨日夜半過ぎに新宿駅構内で見知らぬ男にナイフを突きつけられた。
6. 今日夜不明交通事故のため死亡しました。
7. 昨夜未明の火事で焼死体となって発見されました。
8. 昨夜亡くなりました。
9. 昨日の夜、交通事故にあった。
10. 昨夜被害にあった。
11. 亡くなりました。
12. 無事保護されました。
13. 昨日交通事故にあった。
14. 昨日午後六時ごろ道路を横断していたところ、軽自動車と衝突、2週間のケガをしました。
15. 孫と一緒にサッカー観戦に行きましたが、余りにも興奮してしまつたので、ぎっくり腰になってしまいました。
16. 先日、池でおぼれているアヒルの子を助けました。
17. 電車のドアにはさまれ死亡しました。
18. 回ものから帰宅途中に後から来た男に2万円の入った財布を奪われ、犯人はそのまま逃げました。
19. 太平洋をヨットで横断した。
20. 悩んでいます。
21. 20日朝、弟の……に刺され、重傷を負った。
22. このたび、東京大学の法学部へ入学した。
23. 最近画展を開いた。
24. 昨夜遺体で発見されました。
25. 昨夜変死体で発見されました。
26. 交通事故にあいました。
27. 昨夜食中毒で病院に運ばれた。
28. 事件に巻き込まれたそうです。
29. 昨夜置く死体で発見された。
30. 昨夜何ものかに自宅で襲われ、頭金数十万を盗られた。
31. 都心のデパートの前で、さてどちらに行つたものかと困っていた。
32. 珍しい猫を買っていると、知らせしてくれた人がありました。
33. 人命救助をし新聞に報道された。
34. 地方紙に「人気者のおばあちゃん」として乗りました。

35. 昨日かっぱらいに襲われました。
36. 行方不明となりました。
37. テレビでインタビューを受けている。
38. 次の宇宙ロケットに乗船することになりました。
39. このたび人間国宝に指名されました。
40. 新聞に載つた。
41. 20日午後4時頃横断歩道を渡ろうとして車に跳ねられました。
42. テレビで話されています。
43. サッカーの観戦中に倒れました。
- (2) 浦和市のA子さん(60)が都心の
1. 高層ビルの間でタクシーをつかまえたようとしていました。
2. ある駅で知人に会った。
3. ○○ビルで彼女の個展を開いた。
4. 交差点でひったくりに会い、現金300万円を盗まれた。
5. ある公園で行なわれた盆裁祭りに参加することになりました。
6. 某高層ビルから落下し、死亡しました。
7. マンションを購入しないかという話に乗せられ、300万円をだまし盗られました。
8. 交差点で交通事故に会いました。
9. 高層ビルで突然亡くなりました。
10. 交差点で事故にあった。
11. マンションを3億円で購入した。
12. アパートの一室でなくなっているのが発見されました。
13. あるビルの中で有名な人に会った。
14. 生活に飽きたららず、今年の夏北海道へ旅行をしに行きました。
15. デパートに行こうとしましたが、地下鉄の駅で迷子になってしまいました。
16. あるビルの屋上から飛び降り、全身打撲で即死しました。
17. ビルの屋上から飛び降りました。
18. 雑踏の中で道に迷っていると、通りかかった白髪の老人に声をかけられ、Aさんは無事に目的地へ着くことができました。
19. マンションで一人暮らしをしていた。
20. アパートへ行きました。
21. アパートで刺された。
22. マンションで死後半月たつて発見された。
23. マンションを購入した。
24. ホテルで遺体で発見された。
25. ビルの地下で変死体で発見されました。
26. デパートで買い物をしました。
27. 高層ビルから飛び降りました。
28. 真中にある木造ビルを立ち退くことに強く抵抗している。
29. Bという店で見つかった。

30. アパートで何もの科に殺されているのが、訪ねていった友人に発見された。

*31. 息子の会社の前まで来ると

32. 路上で交通事故に会います。

33. 交通渋滞についてインタビューを受けた。

34. デパートで買い物をした。

35. ホテルで愛死体で発見されました。

36. 人混みの中で倒れました。

*37. 人通りの多い中で

38. ビルの上でのおおこ上げをするそうです。

39. 街路樹の世話をしていることが発見されました。

40. 土地を買おうらしい。

41. マンションに引っ越してきたのは2年前のことです。

42. 有名な銀行で話されています。

43. 奥夫婦の家へ遊びに行きました。

(3) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通勤していた

1. 一人の男性に声をかけられました。

2. ある男性と結婚しました。

3. Bさんの家に訪ねていった。

4. 会社員の車にひかれて意識不明の重体。

5. 息子の次郎(36)の妻正子(32)についてこう語っています。

6. 途中、何ものかに襲撃され、重傷を負いました。

7. 会社員B氏(59)を刺し殺したということです。

8. 途中でトラックにはねられ死亡しました。

9. ところ、交通渋滞に巻き込まれました。

10. 頃、町の京観はずいぶん違っていった。

11. 男性の自動車にはねられた。

12. が、退職しました。

13. 息子をたまたま見かけ声をかけた。

*14. そして5年がたち、退職して今では快適な生活を送っている。

15. 友達のB子(61)さんに会いに行きました。

16. 途中、急に腹痛を感じ、通りすがりの男性に助けを求めたところ、無視され、道で倒れているのが発見されました。

17. K会社の社長の運転するワゴンにひかれました。

18. 頃の知り合いに偶然であつた。

19. ころは、今のよう朝夕のラッシュはなかつた。

20. 素直な男性を見つけた。

21. 途中、通りががりの男……に刺された。

22. Bさん(32)と知り合い、このたびめでたくゴールイン。

23. ところ事件を目撃した。

24. 男性に危ないところを助けられました。

25. ところを何ものかによって刃物で刺されました。

*26. 頃

27. 会社員(35)に刺されました。

28. ころに書かれた本がこれです。

29. 会社員Bさん(50)にいきなり襲いかかるといふ事件があつた。

30. 友人のBさんが数日前から連絡がとれず不審に感じ、警察に通報しました。

*31.

32. ときには、このビルはまだありませんでした。

*33. 友達と久しぶりに会うことができ、

34. 一人息子のBさん(37)と同居することになった。

35. 頃、その辺りにはまだ空き地があちこちに残っていました。

36. ころ、その界わりにはまだ緑がたくさん残っていました。

*37. 人達の中で、

38. 息子さんに、毎日おかずの違うお弁当を作っていて、近所の人にも感心してました。

39. Bさん(38)の車にはねられ重体。

40. が9月25日を持って退職することになった。

41. B男さん(40)と知り合いになったのは2年前のことです。

42. 頃のことでした。

43. 途中、車にはねられ死亡しました。

(4) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通勤していたころ、

1. 今のよう高層ビルが立ち並び様子は予想もできませんでした。

2. 今の夫と知り合い、結婚しました。

3. よく、帰りに日本橋のそこうで買い物をしました。

4. 川の水が今よりもずっときれいだったと追憶する。

5. よく高島や日本橋店へ買い物に行っていました。

6. 浦和市内では地震が発生した。

7. 顔見知りだったどうしに在住のB氏殺害の疑いで逮捕されました。

8. 交通渋滞にあつた。

9. 会社の帰りによくデパートへ買い物に行った。

10. 長男のBさんが病気になる。

11. 地震が起きた。

12. よく三越で買い物をしました。

13. 急に雷がなり雨が降りました。

14. 第二次関東大震災が起きました。

15. よく訪れた料亭に、奥夫婦を招待しました。

16. 彼女の自宅で孫では孫がマッパで火遊びをしていて、家が丸焦げになってしましました。

17. 心臓麻痺でなくなりました。

18. よく通っていた弁当屋が近頃廃業になったと言ふことだ。

19. 新しいビルが次々に建設されていた。

20. にはもっとやせていた。
21. 今の主人にであった。
22. まだ周辺にはのどかなたんぼ風景が広がっていたと言う。
23. 若者のファッションは現在のようではなかったと語る。
24. 私鉄はまだ浦和まで通じていませんでした。
25. まだ日本橋には暖かい人情が残っていました。
26. は、とてもきれいな人でした。
27. ある事件が起こったのです。
28. 最初の旦那さんと知り合ったということだ。
29. 町並は今の様子とはまったく異なっていた。
30. また、日本橋のあたりは、江戸から続く日本情緒あふれるところであった。
31. まだ、高層ビルはあまり見られなかった。
32. よく高島屋でホテルメイドのシチューを買って帰りました。
33. 現在のご主人とであったと言ったと言った話を聞いたことがある。
34. 私はまだほんの子供でした。
35. 女性のスカート丈はひざした15cmが主流でした。
36. は今ほどラッシュがひどくありませんでした。
37. の事を話している。
38. 電車の中はまだ空いていたそうです。
39. ぐう然助けた犬と再会。
40. 偶然は母とであっただけであらうである。
41. ある忘れ難い出来事に遭遇しました。
42. 私はおつきあいをいただいております。
43. このビルがたちました。
- (5) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった
 1. 道を必ず通っています。
2. 時刻に家を出、毎日同じ電車に乗っています。
3. 時間にある喫茶店で休憩をとった。
4. 自分の仕事を忘れて上司にひどくおこられくびになりそうであった。
5. 時刻に電車に乗っていました。
6. 場所にはすでに人が集まっていた。
7. いつものコーヒー店で朝食をとっていたところ、刃物を持った覆面の男達に人質としてとられた経験があったそうです。
8. 車がいつも同じ場所にとまっていた。
9. 時間に同じ人に会った。
10. 額の給料はもらえなかった。
11. 電車を利用していった。
12. 時間に電車に乗っていました。
13. 時間にいつもやってくる郵便やが来た。
14. ことは課長に昇進したということだった。
15. 時刻になると、すぐ退社してしまうC子さんのことを話してくれた。
16. 時刻に、道端でいつも60代ぐらいのももひき姿の変なおじさんが、ラジオ体操をしています。
17. 服を着た青年(18)に刺されました。
18. 電車の決まった場所に乗っていた。
19. 車があとをつけてきていた。
20. 場所で見かけるハンサムな男性がいました。
21. 食堂で食事をとっていた。
22. 時間にいつも親子連れのタヌキが会社の前に現れていたと言う。
23. 場所ですべて出会う人がいた。
24. 時間に家を出ると毎朝見かける男性がいました。
25. 時刻になると、必ず一人のある男が現れた。
26. 時間に出会う人がいました。
27. 時間の電車にいつも乗っていました。
28. 相手はまだ無く、誰もその後のA子さんの人生を想像することはできなかつた。
29. お店へ、会社の帰りによく寄った。
30. 時間に必ず現れる大道芸人がいた。
31. 時間になると、いつもここを通っていた。
32. 車輦に乗っていました。
33. 時間に毎朝一日も欠かさず家を出ていました。
34. 男性といつもデートをしていたようだ。
35. 電車の決まった席にいつも座っている男性がいた。
36. 曜日に習い事に行っていた。
37. 時間にこの通りを歩いていた。
38. 駅で牛乳を飲むのを日課としていました。
39. 場所ですべて花に水をやっていました。
40. 時間に出動していた。
41. 座席に座っている一人の老人がいました。
42. 時間にいつもであっておりました。
43. 時刻に起きていました。
- (6) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった
 車輦のきまった
 1. 場所にいつも乗っていました。
2. ドアから電車に乗っていました。
3. 座席にすわっている男性がいた。
4. 座席に座り、いつも本を読んでいた。
5. 席に毎朝座っていました。
6. 座席に決まった人が座っていた。
7. 吊革につかまっていたそうです。
8. 席にすわっていました。
9. 運転手によく会った。

6. 高校生が話をしていました。
7. いた変質者に毎日のようにつきまわっていたそうです。
8. いた少年がいた。
9. 人を待っている人をよく見かけた。
10. 人が乗り降りするのをじっと見ている奇妙な人がいた。
11. 窓の外の景色を眺めるのが好きだった。
12. 本を読みながら通っていました。
13. 読みかけの小説をとりだし読み始めた。
14. いつも本を読んでいた。
15. アンパンを人目を気にせず食べていました。
16. 外の景色を見ながら、鼻歌を歌っている若いサラリーマンがいました。
17. 本を読んでいたところ、出ていく人の波に流されてドアにはさまれ死亡しました。
18. 電車内の通勤通学途中の人々を眺めることを習慣としていた。
19. 外を眺めていた。
20. 外を見るのが好きでした。
21. 本を読んでいた。
22. 外の景色を眺めていたという。
23. 詩を書いている人がいた。
24. いる男性はいつもマンガを広げていました。
25. A子さんをじっと見ている男がいた。
26. 新聞を読んでいる人がいました。
27. 乗ってくる人たちを見えています。
28. 何かいいことはないかと毎日悩んでいたと言った。
29. 外をずっとながめていた。
30. いた男の人がいた。
- *31. いつもものようにぼんやりと窓の外を眺め、
32. いつも小説を読んでいた。
33. 小説を読む習慣があった。
34. いたと話していたのを聞いたことがある。
35. その教会を窓からながめるのが日課でした。
36. いました。
37. 過ぎ行く町を眺めていた。
38. 車内を観察する人がおりました。
39. 流れゆく景色をぼんやりとながめていた。
40. じっと外の景色を見つめていた。
41. 本を読んでいる人がいました。
42. いらっしゃるのをお見かけしたものです。
43. ビルに夕日が沈んでいくのを見ながめていました。

10. 座席にいつも座るようになっていた。
 11. 座席に座るのが習慣だった。
 12. 席に座っていました。
 13. ドアから乗った。
 14. 座席にすわった。
 15. 座っていた男性に会えることを、いつも楽しみにしていました。
 16. 席に必ず座っているよほよほのおじいさんがいました。
 17. 座席に座っていると、人身事故のため電車は止まってしまいました。
 18. 場所に着いて文庫本を読むのが習慣だった。
 19. 場所に着いたら、こい男の人が座っていました。
 20. 座席に座りました。
 21. 席に座っていた。
 22. 座席にしか座ってはいないという規則がありました。
 23. 席に必ず本を読んでいる男性がいた。
 24. 席に毎朝同じおばあさんが座っていた。
 25. 場所に一人のある男が乗り込んできました。
 26. ところにいつもメガネをかけた人がいました。
 27. 席に座っていました。
 28. 座席に変な老人がいつもすわっていた。
 29. 席に毎日座っていた。
 30. 席に座っていた。
 31. 座席に座り、家路についていた。
 32. 座席の前の吊革を持ちました。
 33. 座席に座ることが習慣になっていた。
 34. 座席にいつも腰掛けていたそうだった。
 35. 位置に立っている男性と毎朝目が合った。
 36. 席に座っていました。
 37. 席でいつも本を読んでいた。
 38. 席に座る人と、仲良くなりました。
 39. 場所でもいつも友人と話をしていました。
 40. 席にいつも座っていた。
 41. 座席に座るようにしていました。
 42. 席でお見かけしました。
 43. 席で決まった人と話をしていました。
- (7) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった車輪のきまったドアの横に立って、
1. いました。
 2. やはりいつも同じ位置に乗ってくる人を見えていました。
 3. 外の景色を眺めていた。
 4. お年寄りが体の不自由な方の乗り降りを手助けしていました。
 5. 本を読むのが習慣となりました。

(8) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった車輻のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う

1. 毎日を送っていた。
2. ある人を見ついても見ていません。
3. 男性と知り合って結婚しました。
4. 間、めい想にぶっけていました。
5. ある女性を知りました。
6. 会社員がいた。
7. 途中で朝食をとるため、他の乗客からの苦情がたえないそうです。
8. 途中で外を眺めていた。
9. サラリーマンをよく見かけた。
10. サラリーマンがいた。
11. 習慣だった。
12. のが習慣でした。
13. 途中よく読書したものだ。
14. のを習慣としていた。
15. 女の人と友達になりました。
16. 男性の集団がいた。
17. 同僚のB子さんと出会い口論のすえ喧嘩になったもようです。
18. までの時間をヘッドホンステレオの音楽をききながら過ごした。
19. 習慣があった。
20. たいくつな毎日でした。
21. 途中、Bさんに会った。
22. あやしい姿をよく目撃したという。
23. 外国人がいた。
24. 人と出会いました。
25. 一人の男がいた。
26. こととはとても楽しかった。
27. のでした。
28. 人の流れに流されるままに生きていたと言う。
29. その道程を楽しんでいた。
30. ことが日課であった。
31. 毎日であった。
32. 間、本を読んでいた。
33. 習慣があった。
34. サラリーマンだった。
35. ことに嫌気がさしてきたことがあった。
36. 男の人がいました。
37. ことに決めていた。
38. のを自分に課していました。
39. 同僚と話をしていました。
40. のが日課であった。

41. 女性と知り合いになりました。
42. のを知っておりました。
43. ことが多かった。

(9) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった車輻のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う目的

1. 不自由な一人の男性と知り合いになりました。
2. ききなある女性がいつも目に入りました。
3. 若い外国人の女性と友達になった。
4. 不自由な夫の世話をしていた。
5. 若いフランス人と知り合いになりました。
6. 若い外人がいた。
7. 前に広がる景色に見せられて毎日通い続けるうちに写真をとるようになったそうです。
8. 悪い人がいた。
9. 不自由な人をよく見かけた。
10. 不自由な人がいた。
11. 中には決まった景色がうつっていた。

*12. 前で

13. 疲れをいやすために目薬をさした。
14. 不自由な人のサポートをした。
15. 横にはくろろのある女学生がいました。
16. 不自由な女子高生がいました。
17. 見えない子供に話しかけていました。
18. 前にいつも同じ男の人が立っていました。
19. 不自由なおばあさんを見ていた。
20. やり場のない朝の20分でした。
21. 悪い人と会った。
22. 不自由なお年寄りかいたそう。
23. 見えない男性がいた。
24. 不自由なおばあさんがいました。
25. 弱った男がいた。
26. 前にいました。
27. きれいな女の人といつも一緒にいたものでした。
28. しらほほど空虚な生活を送っていた。
29. 不自由な人である。
30. 不自由な人がいた。
31. 不自由な人に席をゆずってあげた。

*32.

33. 見えない女性と一緒にいることがあった。
34. 悪い人だった。
35. 不自由なおじいさんがいました。

36. 不自由な人がいました。
37. やり場はいつも過ぎ行く町並を眺めていた。
*38.

39. 不自由な老人と仲良くなった。
40. 前にある日一人の女性が立った。
41. 不自由な女性を見かけたものでした。
42. 不自由な人でした。
43. 不自由な人によく出会いました。

(10) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった車輻のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う目の不自由な女性と

1. 話をすることがありました。
2. 知り合いになり、毎日一緒に話をしながら通いました。
3. 一緒に話をした。
4. ともに福祉センターに通っていた。
5. 知り合いになりました。
6. 知り合った。
7. 知り合いになり、ボランティア活動に献身的に取り組むようになったそうです。

8. 話した。
9. 知り合いになった。
10. 盲導犬がいた。
11. 仲良くなった。
12. 知り合いになりました。
13. 彼女を電車の揺れからからばいながら長話をした。
14. 点字を一緒に習っていた。
15. その母親を何回も見ました。
16. 足の不自由な男性が仲良く話していました。
17. ぶつかってしまいました。
18. 一緒に日本橋から会社までの道を歩いていったものでした。
19. よく話をしていた。
20. 話をしました。
21. 会った。
22. 知り合いになったそうです。
23. その子供らしき男の子を毎朝見かけた。
24. 知り合いになりました。
25. 盲導犬がいた。
26. 話をするのを楽しみにしていました。
27. 一緒になっていました。
28. 話をしていた。
29. ふとしたことから友人になり、それは今も続いている。
30. 知り合った。

31. 話をしたことがある。
32. 友達になった。
33. 話をしながら通動していた。
34. 話をしたことがあったらしい。
*35.

36. 一緒にになりました。
*37. 親しくなって
38. 知り合った。
39. 楽しいひとときを過ごした。
40. 話す機会を得た。
41. その夫とおぼしき男性を見かけたものでした。
42. 一緒に乗っておられました。
43. よく話をしました。

(11) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通動していたころ、きまった車輻のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う目の不自由な女性と
毎朝一緒に

1. 行っていました。
2. 話をしながら通いました。
3. 会社まで行っていた。
4. 彼女の勤め先まで送っていった。
5. 話を交わしながら通勤時間をともにした。
6. 会社へ行った。
7. 通勤するようになったそうです。
8. 世間話をしていた。
9. 話をした。
10. 通勤する仕事仲間が駅のホームでぶつかかった。
11. 通勤した。
12. 行くようになりました。
13. 決まった電車で通勤した。
14. 通っていたものでした。
15. あいさつを交わしました。
16. 駅を出てから会社まで歩きました。
17. 通動している友人とが話しているのを見かけました。
18. 日本橋の駅構内で朝食をとったものでした。
19. 乗り合わせていました。
20. 座っていました。
21. なっていました。
22. 通学する小学生の姿を見たそうだ。
23. 電車に乗っている犬を見た。
24. なりました。
25. なった。

11. 今はもう二人が出会うことはない。
12. 知り合いになった二人だが、後にA子さんは退職し、日本橋まで通わなくなってしまう。
13. A子さんはなんとかしてその女性と友達になりたいと思ひ、ある朝彼女に席をゆずった。
14. その女性はハンディを持っていてにもかかわらず誰の介護も受ける必要のないほどしつかりとした人だった。
15. A子さんは、いつも席を譲ってあげようと思ひましたが、なかなか声をかけられませんでした。
16. A子さんは、いつも席をかわってあげたいと思ひていたのだが、結局一度も実行できなかった。
17. そして、会社の途中で目の不自由な女性の世話をしあげたものだった。
18. A子さんは、目の不自由な人を毎朝見ては、目が不自由なのに一人で通勤してるなんて頭が下がる思ひだった。
19. 私が席に座っているときは、いつも「席を譲ってあげよう」と思ひのだが、勇気が出ず、その一言がなかなか言えなかった。
20. ほのぼのとした優しい人柄に心が和らいだ通勤のひとときでした。
21. 彼女はいつも吊革を持って立っていた。
22. ある日、その女性の落とし物を拾ってあげたことが縁で、二人は知り合いになった。
23. 同情してはいけな思ひながらも毎朝気の毒な気持ちで見ているとA子さんは言う。
24. 後になってわかったことだが、その女性とA子さんは同じビルの中の違う会社で10年も時を同じくして働いていた。
25. その女性は目が不自由なはずなのになぜかいつもA子さんのことをじっと見つめていた。
26. ありから40年の歳月が過ぎたけれどあの人は今頃どうしているだろうか。
27. ある朝、その女性がいっつも車輦に乗っていないのに気づいたA子さんは彼女が乗車する駅でおりてみました。
28. 彼女が目が不自由でありながらもいつも器用に電車に乗り降りしていることに気づいて驚いたとともに尊敬の念を禁じえなかった。
29. 彼女は今どうしているのかと、通勤をしていた頃のことを思い出すとふと思ふことがある。
30. 彼女は、盲導犬とともにいつも静かに、駅に着くまで立っていた。
31. いっつもどちらへ行かれるのだろうと思ひながら、声をかけたことはない。
32. A子さんはいっつも声を掛けるようになり、毎日電車の中で会うのを楽しみに思ふようになり、ついには目の不自由な人と親友になりました。
33. 彼女とはそれ以来親しい友達として交際を続けている。
34. 彼女はそんな不自由な人かものともしない強い人な人であった。

*35.

26. 話をしました。
 27. なりました。
 28. 話をしていた。
 29. 話していた。
 30. 通勤していた。
 31. なっていた。
 32. お茶を飲んでいました。
 33. いろいろなことを話した。
 34. なった。
 35. なりました。
 36. なりました。
 37. 言葉を交わすことになった。
 38. 階段を昇降しました。
 39. 話をしていた。
 40. なるのが楽しみでした。
 41. 立ち話をしていました。
 42. 乗っていた。
 43. 下車していました。
- (12) 浦和市のA子さん(60)が都心の日本橋に通勤していたころ、きまいった車輦のきままたドアの横に立って、日本橋まで通う目の不自由な女性と毎朝一緒にになった。
1. A子さんは彼女のことを何となく気にしたり、いつもいつも目をやるようにしていました。
 2. 何度も会ううちに二人は友達になり、毎朝電車の中でおしゃべりを楽しみました。
 3. A子さんはその女性に声を掛け、日本橋までいろいろ話をするようになつた。
 4. その目の不自由な女性は、もちろん最初はAさんだとは気がつかなかったが、日がたつにつれ、Aさんの存在に気づくようになった。
 5. 何度か電車で見かけるうちに、A子さんはその女性が電車の中で不思議なものを手にしていての気がつきました。
 6. それ以来その女性とは長いつきあいである。
 7. ふとしたきっかけでA子さんはこの女性と話をするようになり、この女性を通じて障害を持つ人が大勢いるのだと知るようになり、ボランティアに目覚めて、現在では会社も辞め、そちらのほうに全力投球している毎日だそうです。
 8. その女性はA子さんと同じぐらいの年齢だった。
 9. あるときA子さんはその女性に声をかけた。
 10. A子さんはその女性のことを気がなつて、話しかけようかとも思つたが、彼女が目が不自由で自分の姿を見たことがないのだからと考える話しかけることができなかつた。

37. 言葉を交わすごとにこの人の人柄にひかれていった。

38. あれから30有余年。

39. A子さんはいつも声をかけて楽しく話をしてみたいと思いつつもなかなかできなかった。

40. 長い勤めが終わろうとする自分の単調な人生を振り返って、この人の人生がどのようなに変化の大きいものであったかと思った。

41. ある日のこと、その女性がいつものところに立っていないだったので、A子さんは非常に心配になった。

42. ある日私はA子さんに話しかけるチャンスがありました。

43. 毎日顔を合わせているうちに二人はだんだん仲良くなっていった。

文<2> 浦和市のA子さん(60)は/都心の/日本橋に通勤していた/ころ、/きままった/車輦のきままった/ドアの横に立って、/日本橋まで通う/目的/不自由な女性と/毎朝一緒に/なった。

(1) 浦和市のA子さん(60)は

1. 自宅を出て駅周辺を徘徊しているところを保護されました。
2. 昨夜鳥子と口論した。
3. このたび長年の功績を認められて表彰された。
4. 一人暮らしである。
5. 昨日交通に関する対策委員会の席上で、突然発作のため死亡した。
6. ○○会社に勤務していたが25日突然解雇を言い渡された。
7. ここにすんでもう40年になる。
8. 現在娘さん家族と暮らしています。
9. 昨年から地区の公民館で、若者のために郷土料理教室を開いている。
10. 昨夜未明、付近の山林で発見された。
11. 駅前で黒い服の男に財布をおとしとられた。
12. 昨日交通事故にあい、病院へ運ばれた。
13. 昨夜交通事故で亡くなりました。
14. 毎日公園のゴミを拾っているそうです。
15. 来月年賀状の個展を開くことになりました。
16. 旦那さんと死別したあと、この仕事を始めた。
17. ゆうべ○○宿館で火事があった。
18. 奇跡的に一命をとりとめました。
19. 幼い頃から手足が不自由でした。
20. 先月誕生日でした。
21. 昨日市民栄誉賞を受賞した。
22. その時の様子を次のように語っている。
23. 昨夜自宅が火事になり、今朝焼死体で発見されました。
24. 昨日未明交通事故で死亡しました。

(2) 浦和市のA子さん(60)は都心の

1. 住みづらさ家族に訴え、今の場所に移りました。
2. マンションに住んだことがある。
3. 環境汚染についての研究をしている。
4. 会社に勤める息子と暮らしている。
5. 交通環境の悪化による交通事故者数の増加問題を都庁の前で訴えた。
6. マンションに住む息子に会いに行く途中、殺害された。
7. 環境問題に興味を持っている。
8. 自然保護に力を尽くされている。
9. ボランティア協会で働きはじめて、もう23年になる。
10. ビルの所有者である。
11. ビルの屋上からとびおり自殺した。
12. オフィス街で倒れた。

13. マンションを訪ねました。
14. 方へ出かけると必ず都庁へ行くのだそうです。
15. お年寄りが、どんな趣味を生き甲斐にしているかを語り合う会を都庁で催しました。
16. 雑踏が嫌いです。
17. あるビルに勤めています。
18. 道路で事故にあいました。
19. 一角にあるアパートで暮らしています。
20. ビルの所有者です。
21. 製菓会社に2時間かけて通勤している。
22. 高層マンションの8階で一人暮らしをしています。
23. 高級住宅街に住んでいます。
24. 某有名デパートの営業員です。

(3) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していた

1. 息子さんに、家へ戻るように電報をうちました。
2. が、結婚後、退職しました。
3. 子の張る(4月)までは、健康を保っていましたが、その後入退院を繰り返すようになった。
4. ので、友達がたくさんいる。
5. 友人のB子さん(25)に対して、遺産の全額を贈与すると申し出た。
6. ことがある。
7. 頃のことを思い出して、語ってくれた。
8. 時に、ご主人と知り合いました。
9. 経験を持っていて。
10. が、現在は孫の面倒を見るのに明け暮れている。

11. 頃、よく被害にあった。
12. ことがあった。
13. ことがあります。
14. 頃、よく、ある古い喫茶店へ行ったそうです。
15. ご主人を、5年前心筋梗塞でなくしました。
16. だんなさんの知人をたよって上京した。
17. が、上司とのめめ合いが原因で、教週間前解雇されていた。
18. 時にその事故にあいました。
19. 去年の八月に初めて書道教室に通うことになりました。
20. ことがあります。
21. 頃のことについてこう語った。
22. 一人暮らしの女性だった。
23. ころ夫のB子さん(65)と知り合いました。
24. 女性です。

(4) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、

1. 現在のご主人と出会いました。
2. ?
3. このアイデアを考え始めました。
4. マーチャンにこっていた。
5. その端の近くにある中華料理屋の主人から傘を借りたことがあった。
6. 人生において大きな出来事に会った。
7. 地下鉄を利用していた。
8. よくこの店に立ち寄った。
9. 大変興味深い経験をした。
10. 一度思いがけないものを見た。
11. よくひっとくくり合った。
12. Bさんと知り合った。
13. 大きな病気をしました。
14. 毎週金曜日に欠かさず〇×映画館へ通っていたそうです。
15. ハイヒールが足に及ぼす影響について興味を持ちました。
16. その人と知り合った。
17. よく近くのフランス料理店へ行った。
18. その仕事をやろうと思いました。
19. 毎日欠かさずある公園を訪れました。
20. 現在の夫に会いました。
21. いつもこの道を歩いていた。
22. 当時の日本では珍しいミニスカートををはいていた。
23. 夫のBさん(65)と知り合いました。
24. よくどろぼうに入られました。

(5) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、

1. 職業もなく、ぶらぶらしていた若者に、ハンドバックを盗られました。
2. 場所に毎日お茶をのみに行っていた。
3. 場所に、同じ店で朝食をとるようにしていた。
4. プールに毎週日曜日に通っていた。
5. 道を通って会社へ通っていた。
6. 店に入りにしていた。
7. 時間に、その店で昼食をとっていた。
8. 時間に家を出ていた。
9. 交通機関を毎日利用していた。
10. 電車に乗っていた。
11. 時間に家を出る、という規則正しい生活をしていた。
12. 食堂でご飯を食べていた。

13. 時間にある仕事をしていた。
14. 時間にある人を見かけました。
15. 人と毎朝同じ時刻にすれ違うので親しみを覚え、声をかけてみたいと思うようになりました。
16. 電車で毎日乗っていた。
17. 時間に地下鉄に乗っていた。
18. 時間に電車で乗るようにしていた。
19. 時刻にいつもある場所を訪ねていました。
20. 時間に朝、家を出ていました。
21. ようにこの喫茶店にきた。
22. 制服に反発していた。
23. 時間に、通勤途中にある公園でハットにえさをやっています。
24. 店によく出入りしていた。

(6) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輦のきまった

1. 座席に座らなかつたというだけの理由で逮捕された。
2. 座席にすわったものだった。
3. 席に座ることになっていた。
4. 座席に座るのが楽しみだった。
5. つり吊革につかまってすみだ川の景色を見ていた。
6. 位置に立っていた。
7. 席に座っていた。
8. 座席にいつもわっていった。
9. 座席に座るようにしていた。
10. ドアから乗り降りしていた。
11. 席をいつも利用していた。
12. ところに立っていた。
13. 場所にも立っていません。
14. 座席である人を見かけたそうです。
15. 席に、幼い男の子がいつもおとなしく座っているのを気にかけていました。
16. 場所にも座っているおじいさんを前から気にかけていた。
17. つりかわにつかまって立っていました。
18. 席にすわることになっていた。
19. 座席に腰掛けて電車に乗っていました。
20. 座席に座っていました。
21. 場所に立って本を読んだ。
22. 場所に座っていました。
23. 席に座っていました。
24. 男性に会っていた。

(7) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輦のきまった

1. 毎日、外の景色を見るのを楽しみました。
2. 外を見るのが好きでした。
3. 車内の人々の観察を続けてきました。
4. 窓の外を眺めていた。
5. 途中で通り過ぎる八百屋の黄色い屋根を見ていた。
6. 毎日窓の外の風景をながめていた。
7. 本を読んでいた。
8. 外を眺めた。
9. 車内の乗客たちの様子を観察していたものである。
10. 窓の外を眺めていたものだった。
11. 外を眺めるのが習慣だった。
12. 人を待っていた。
13. いつも見るのを楽しみにしていたものがあった。
14. 景色を眺めながら通ったそうです。
15. 新宿の高層ビルをながめていました。
16. いる青年に興味を持った。
17. 窓の外の風景を見つめていた。
18. いつも窓の外を眺めていました。
19. じっと窓の外を見続けていました。
20. いつも本を読んでいます。
21. ばーっと外を眺めていた。
22. 窓の外の景色を眺めていた。
23. 外を眺めていました。
24. 何時間も人を待っているようだった。

(8) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輦のきまった

1. 人々の様子を観察していました。
2. 男性に一目惚れした。
3. のが習慣になっていました。
4. 間、ずっと本を読んでいた。
5. 姿を多くの関係者に見られている。
6. 人を見つけた。
7. 間の数時間、本を読んでいた。
8. のを習慣にしていた。
9. 自分と同じような通勤者達のことを知らず知らずのうちに観察していた。
10. もう一人の自分に気がついた。
11. という規則正しい生活を送っていた。
12. 事にしていた。
13. 車を見ている。

14. 間、英語の本を読んで勉強したそうです。
15. 約〇時間〇〇分の間、その電車を乗り降りする人々を観察してきました。
16. ことに決めていた。
17. のを習慣にしていた。
18. ことにしていたそうです。
19. 途中の景色をカメラにおさめています。
20. のが楽しみでした。
21. 間、ウォークマンでジャズを聞いていた。
22. のが日課になっていた。
23. 時間を過ごしていました。
24. 姿を目撃されていた。

(9) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輦のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う目の

- * 1.
2. 不自由な女性と親しくなった。
3. 不自由なB子さんと知り合いになった。
4. 若い外国人と出会い恋に落ちた。
5. 細かな大島紬の背広を着た男と見ている。
6. 不自由な人と友達になった。
7. 不自由な人を見かけた。
8. 不自由な人と毎朝会った。
9. 不自由な、ある一人の乗客のことが、いつも気になっていた。
10. 悪い男性をたびたび見かけた。

11. 不自由な女性です。
12. いい人です。
13. 不自由な人を知っていました。
14. 不自由な婦人として話をしたそうです。
15. 青い金髪の外国人女性に興味を持ち、いつか話しかけようと思っ
- ていました。
16. 不自由な人のことが気になっていた。
17. 体操をしていた。
18. 不自由な方が気になっていたそうです。
19. 不自由な女性B子さんに付き添っていました。
20. 前の人を見つけていました。
21. 不自由な人と話をした。
22. 不自由な女性だった。
23. 保蹙にと、外の景色をながめていました。
24. 悪い女性です。

(10) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輦のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う目の不自由な女性と

1. 話をしようとしてチャンスをうかがっていました。
- * 2.
3. 出会った。
4. 知り合った。
- * 5. その子供に対して
6. 知り合った。
7. 親しくなったことがある。
8. 会った。
9. 会話に楽しく花を咲かせたものである。
10. 話をする機会があった。
11. 毎日話をしたそうです。
12. 友達でした。
13. 話をすることがあった。
14. よく言葉を交わしたそうです。
15. その女性の横におとなしく座る言導犬に心引かれてきました。
16. 親しくなった。
17. 話をするのを楽しみにしていました。
18. そのお子さんをしています。
19. 毎朝言葉を交わしながら電車に乗っていました。
20. 知り合いになりました。
21. おしゃべりをした。
22. 知り合いました。
23. 知り合いになりました。
24. 待ち合わせをしていました。

(11) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまった車輦のきまったドアの横に立って、日本橋まで通う目の不自由な女性と

- 毎朝一緒に
1. 会社までの長いみちのりを過ごしました。
2. 話した。
3. 会社の途中まで歩きました。
4. 駅が一番ホームで待ち合わせていた。
5. 駅で買ったコーヒーを飲むことが日課だった。
6. なった。
7. 電車の乗り降りをしていた。
8. 話しながら通勤した。
9. 前の日にあったことなどをおしゃべりしたものである。
10. なった。
11. 顔を合わせるうちに仲良くなりました。
12. 通勤していました。

- できなかつた。
19. A子さんは初めは声をかけないでいたが、ある日、ある出来事をきっかけにしてこの女性と親しくなりました。
20. 初めの頃は見ていただけだったが、数回見かけた頃に話しかけ、その女性と親しくなつた。
21. その女性はとてもかわいらしい人だった。
22. ある日その女性を手助けしたのをきっかけにとても親しくなつた。
23. それが彼女の運命を大きく変えることになつたのです。
24. それが生き別れになつた妹だと知つたのはもっと先のことである。

(注) *印のついているものは、未記入又は文が完成されていないという理由で、分析の対象から除いてある。

13. 仕事へ行つた。
14. 通っていたそうです。
15. 朝の東京を感じてきました。
16. 会社の途中まで歩いた。
17. 話をするのが楽しみだつた。
18. おしゃべりをしていました。
19. 会社へ通っていました。
20. 通っていました。
21. 話をした。
22. 近所を散歩していた。
23. 毎朝一緒に通勤していました。
24. 通勤した。

(12) 浦和市のA子さん(60)は都心の日本橋に通勤していたころ、きまつた車輻のきまつたドアの横に立って、日本橋まで通う目の不自由な女性と毎朝一緒になつた。

1. A子さんが、その(目の不自由な)女性に最初に会つたのは、30年前の夏のことであつた。

- * 2.
3. 彼女と直接話したことはありませんでしたが、彼女の姿が見えないときは、どうしたのだろうと心配になつたものでした。
4. 彼女はその女性に話しかけたが、なかなか声をかけることができなかつた。
5. その日日本橋まで利用していた路線が廃止されるとの報道を聞き、もう一度、あの電車に乗ってみようと思つた。
6. ある日A子さんはその女性に声をかけた。
7. 女性は都内の盲学校に通う学生だつた。
8. その女性はA子さんより年上だつた。
9. その女性は、目こそ不自由であつたが、自分の目標に向かってせっよく滴に生きている、素敵な方であつた。
10. はじめの頃は、ただ彼女が転びそうになつたところに手をかけて、それ以来言葉を交わすようになつた。
11. しだいにA子さんは女性と話をするようになった。
12. そこで、その女性にA子さんは声をかけた。
13. その女性を見てA子さんはいつも、公共の設備の不十分さを感じていた。
14. A子さんは、たびたびその女性に声をかけようとしたが、とうとう退職まで一度もできずじまつた。
15. かの女はA子さんと同じ年頃に見えた。
16. A子さんはその女性のことを前々から気にかけていた。
17. A子さんは何度もその女性に話しかけようと思つていたが、ある日突然、その女性のはうから声をかけてきた。
18. A子さんはいつもその女性のことを気になつていて、声をかけることが